

TCI-VENTURE AWARD 2026 FINAL

シーズ部門

2026.12.3 Thu. 13:30~16:00

会場：つくば研究支援センター/40名　オンライン/500名　参加費無料

世界有数の研究開発ゾーン発ディープテック・ピッチイベント

当日のプログラム

13:30　開演
13:50　ピッチ開始
16:00　審査会
　　一般参加の方は交流会
17:00　表彰式

表彰（賞の種類）

・大賞（50万円×1者）
・優秀賞（20万円×2者）



お申し込み
はこちらから

主催　㈱つくば研究支援センター
後援　茨城県、つくば市

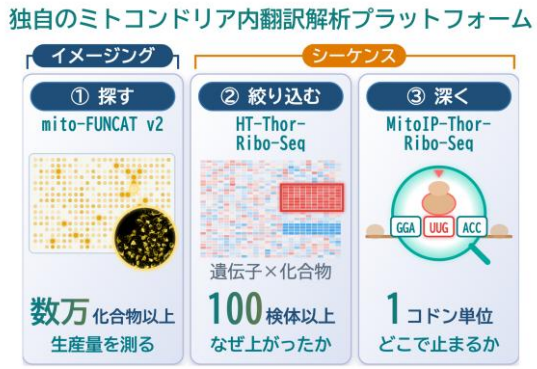
シーズ部門ファイナリスト

ミトコンドリア内の翻訳解析プラットフォームによる新薬探索

理化学研究所 開拓研究所 岩崎RNAシステム生化学研究室
特別研究員　藤田 智也 氏

ミトコンドリア病は、細胞のエネルギー発電所であるミトコンドリアの働きが落ちる指定難病で、主な原因の一つが、その中でタンパク質をつくる「翻訳」の障害です。私たちは、この翻訳を数万化合物の規模で測り、作用の仕組みまで読み解く独自の創薬プラットフォームを確立しました。ミトコンドリア病の新薬候補を自ら見出して製薬企業へ導出するとともに、このプラットフォームを共同研究やライセンスにも活用します。

https://www.riken.jp/press/2026/20260630_2/index.html
https://www.riken.jp/press/2025/20251113_1/index.html



シーズ部門ファイナリスト

未利用海藻から作る、運びやすく微細化しやすいセルロース素材Mowtex

筑波大学　農学学位プログラム
生物材料化学研究室
博士後期課程　林 利有樹 氏

微細化セルロースは多様な産業への応用が期待されていますが、微細化に要する専用設備や、多量の水を含む状態での脱水や輸送が普及の課題となっています。私たちは未利用海藻からセルロースを単離し、容易に脱水・輸送が可能で使用時に簡便な撹拌処理で微細化できる素材「Mowtex」を開発しました。未利用海藻資源の高付加価値化と微細化セルロースの加工・流通負担の低減を両立し、幅広い産業分野への普及を目指します。

https://gtie.jp/gap-fund/entry/2026-1/



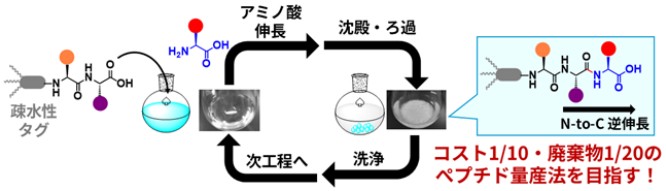
シーズ部門ファイナリスト

ペプチド医薬を変える逆伸長型製造プラットフォーム

産業技術総合研究所　触媒化学研究部門
研究グループ長　生長 幸之助 氏

ペプチド医薬は市場拡大が期待される一方、その製造には大量の保護アミノ酸や有機溶媒を必要とします。本研究では、ペプチドを従来とは逆のN末端からC末端方向へ伸ばし、独自の疎水性タグで簡便に分離する新製造法を開発しています。まず短鎖の実用ペプチドで品質・経済性を実証し、製品ごとの製造プロセスを知財化します。既存CDMOへの技術移管・ライセンスを通じ、低コスト・低廃棄物型のペプチド製造を社会実装します。

https://wakasapo.nedo.go.jp/seeds/seeds-5290/



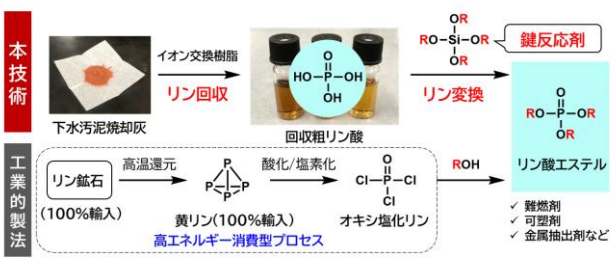
シーズ部門ファイナリスト

下水由来リンから高付加価値リン化成品の直接製造

産業技術総合研究所
研究グループ長　永縄 友規 氏

日本はリン資源を海外に依存する一方、下水には多量のリンが排出されています。本研究では、下水から回収したリンを、海外依存度の高い黄リンを経由せず、難燃剤などに利用されるエステル等の高付加価値な機能性化学品へ直接変換する技術を開発しています。国内の未利用リン資源を化学産業で有効活用する新たな製造プロセスを構築し、資源循環と経済安全保障の両立、さらには国内で完結する新たな化学産業の実現を目指します。

https://unit.aist.go.jp/cpt/index.html



シーズ部門ファイナリスト

ドローンの社会実装に向けたスケーラブルな3次元データ基盤

筑波大学　情報学群　情報科学類
産学間連携推進室
室員　齋藤 智郎 氏

物流やインフラ点検におけるドローンの社会実装には、空域の2次元管理と手作業による飛行審査という課題があります。本発表では、独自の空間データ構造「FlexTree」を用いた3次元運航管理システムを提案します。各種空間情報を統合し、高精度な3次元リスクマップを数秒で作成可能です。安全な航路や申請書類の自動生成を通じ、誰もが日常的に空を使えるインフラを実現します。

https://github.com/AirBee-Project/



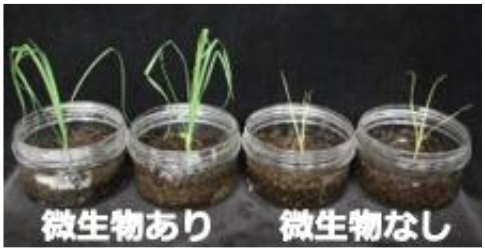
シーズ部門ファイナリスト

在来の植物・微生物を利用した鉱山跡地・重金属土壌の緑化

筑波大学　生命環境系
助教　小川 和義 氏

世界に約650万ha存在する鉱山跡地や重金属土壌は、植生回復が極めて困難であり、従来の覆土工法は多大なコストと環境負荷を要します。本チームは、過酷な環境に自生する在来植物と微生物の「共生系」を最大限に活用した緑化技術を開発しています。本技術を通じて、外部からの資材投入を最小限に抑えた低コストかつ環境低負荷型の植生回復を実現し、国内外の生態系保全および生物多様性の向上（Nature Positive）に貢献します。

https://www.u.tsukuba.ac.jp/~yamaji.keiko.fp/research.html
https://trios.tsukuba.ac.jp/researcher/0000001364



重金属土壌

シーズ部門ファイナリスト

ドローンの電波を受信！未来の空を守る3D位置推定技術

日本原子力研究開発機構
福島廃炉安全工学研究所
専門職　鈴木 政浩 氏

重要施設周辺で、ドローンが発する電波を地上で受信し、その位置を三次元的に推定する技術の開発に取り組んでいます。
福島第一原子力発電所の廃炉研究で培った三次元空間解析技術を応用し、電波伝搬解析とLASSO逆解析を組み合わせることで、電波を発信しないパッシブ方式による複数ドローンの位置推定と受信器の最適配置の実現を目指しています。
今後、実測試験による検証を進める予定です。

https://fukushima.jaea.go.jp/report/prize/20260725.html



シーズ部門ファイナリスト

微生物糖化で、未利用バイオマスを新たな産業資源へ

国際農林水産業研究センター
プログラムディレクター（情報・戦略）
大森　圭祐 氏

農林業や食品・製紙産業などの未利用バイオマスを、産業資源へ転換する微生物糖化技術の社会実装を目指します。国際農研が開発した本技術は、糖化酵素剤を添加せず、微生物の働きでセルロースなどを分解します。原料に応じた微生物の探索・選定や培養条件の最適化により、バイオ燃料や化学品への利用につなげます。設立準備中のアグロサクライズを通じ、原料評価から菌株管理、実証・運転支援まで、企業の現場での活用を支えます。

https://www.jircas.go.jp/ja



個別面談のご案内

面談申込フォームより、お申し込みください。後日面談の機会を設けます。

※ご希望の面談が成立しない場合があることをあらかじめご了承ください。

お申し込みフォーム

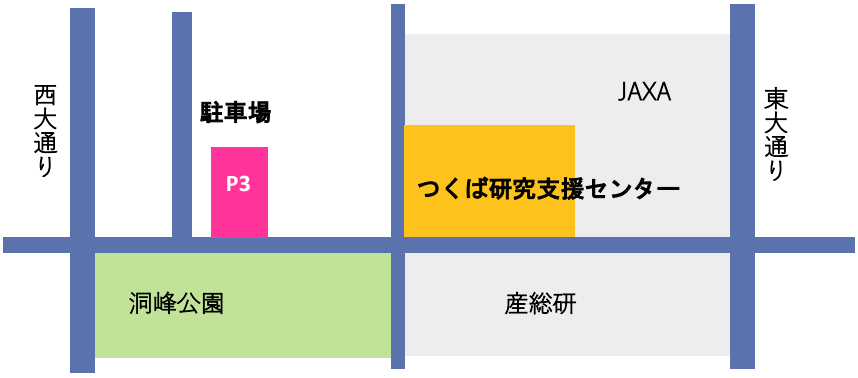
会場参加
https://forms.cloud.microsoft/r/HEDcYsBabG

オンライン参加
https://us06web.zoom.us/webinar/register/WN_kOyV302LRYyTxmEXma9gnw

リアル会場のご案内

つくば研究支援センター（つくば市千現2-1-6）

https://www.tsukuba-tci.co.jp/company/traffic





お問合せ先 つくば研究支援センター 029-858-6000 startup@tsukuba-tci.co.jp